令和４年度　　発表日：令和４年７月８日

農作物病害虫防除速報 №９　　りんご編－３

岩手県病害虫防除所

県内のりんご園地でハダニ類が広く発生しており、密度の高い園地もあります。

園地をよく観察し、発生が目立つ場合は速やかに防除しましょう。

現在の状況

１　７月前半の巡回調査での発生園地率は、ナミハダニは48.4%（平年38.4%）で平年よりやや高く、リンゴハダニは38.7%（平年18.7%）で平年より高かった（図１、２）。

２　向こう１か月の気温は平年より高く（７月７日、仙台管区気象台発表）、ハダニ類の増殖に好適な条件。

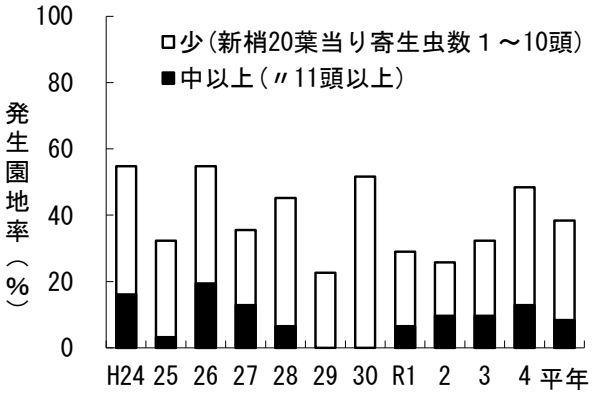

図１　ナミハダニの発生園地率の年次推移
（７月前半、目通りの新梢葉）

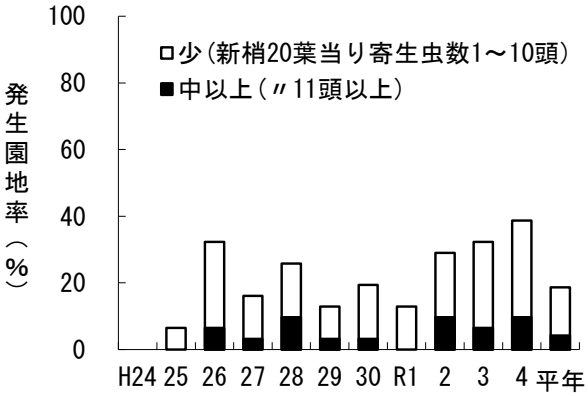

図２　リンゴハダニの発生園地率の年次推移
（７月前半、目通りの新梢葉）

写真１　ナミハダニ

写真２　リンゴハダニ

防除対策

1　ハダニ類の夏期の要防除水準は寄生葉率30%である。主幹近くの新梢葉（普通樹では主幹や主枝の徒長枝葉）に加え、目通りの新梢葉や、樹上部の徒長枝葉も観察し、要防除水準に達した場合は直ちに防除を実施する（図３、４）。

2　薬剤の効果を高めるため、殺ダニ剤の散布７日前頃までには下草処理をしておく。

3　薬剤散布は樹上部までかかるよう十分量を丁寧に行う。不要な徒長枝は散布ムラの原因となるので、早めに剪除し薬剤のかかりやすい樹形を維持する。

4　薬剤抵抗性ハダニの発現回避のため、同一系統の薬剤は１シーズン１回使用に限る。また、複数年を単位とした薬剤のローテーションを厳守する。

5　ダニオーテフロアブルは、銅剤との混用により効果の低下が懸念されるため、混用しない。また、ダニオーテフロアブル散布から10日間は銅剤を散布せず、銅剤散布後は１か月間、ダニオーテフロアブルを散布しない。

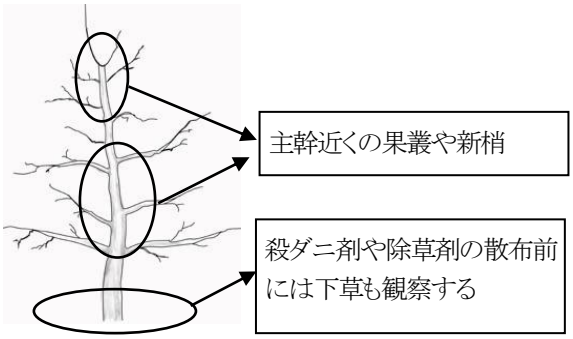

図３ わい性樹での観察場所

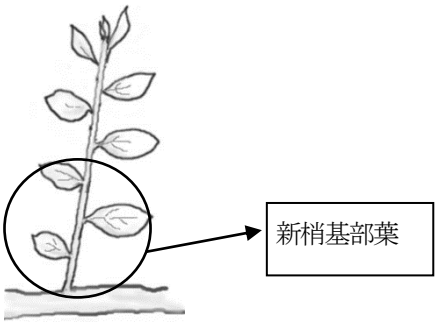

図４ 新梢での観察部位

【利用上の注意】

本資料は、令和４年７月６日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- 農薬使用の際は（１）**使用基準の遵守**　（２）**飛散防止**（３）**防除実績の記帳**を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】ＴＥＬ 0197(68)4427　ＦＡＸ 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html